

単元名 あそび名人になろう

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) いろいろな人々が公園を利用していることや、自然を利用したり遊ぶ物を作ったりすることの楽しさに気付くことができる。
 (2) 遊び方を工夫したり、自分が楽しんだ遊びや感じ取った自然の様子を考えたり、表現したりすることができる。
 (3) 四季の移り変わりに関心を持ち、自然や人々と関わりながら季節に応じた遊びを楽しもうとする。

標準的な展開例

01060303_001

【準備等】けん玉、こま、あやとり紐、竹とんぼ 等

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 昔遊びについて知り、遊び方を調べて練習する。 ○ 昔遊びについて知っていることを発表し、学習の見通しをもつ。 ★昔からの遊びに挑戦しよう</p> <p>○ 地域のお年寄りから昔遊びを知る。 ・こま回しを初めてやるよ。 ・おじいさん、けん玉がとても上手だね。ぼくにも教えてください。 ・あやとり名人に教えてもらったよ。はしごが一人で作れるようになったよ。</p> <p>3 昔遊びを練習したり遊び方を工夫したりする。 ★あそび名人を目指そう ○ 遊びの練習をする。 ・どっちが長くこまを回せるか勝負しよう。 ・けん玉は膝を曲げると上手にできるよ。 ・2人あやとりも楽しいね。3人でもやってみよう。</p> <p>4 練習した昔遊びを披露する。 ★あそび名人になって遊びの楽しさを伝えよう ○ 遊びごとに遊びや技を披露する。</p> <p>○ 感想を伝え合う。 ・〇〇さんのこま回しが上手でした。今度こつを教えてください。 ・二人あやとりが楽しそうでした。形に名前を付けるところがおもしろかったです。 ・昔遊びが上手になって嬉しいです。教えてくれたおじいさん、おばあさんに「ありがとう」と言いたいです。</p>	<p>・地域のお年寄りに、昔遊びのゲストティーチャーとして招待する計画を立てておく。可能であれば、第4時の発表の時間にも招待する</p> <p>・ゲストティーチャーに昔の遊びを披露してもらい、児童が自分もできるようにになりたいという気持ちを高め、めあてを提示する。 ・遊びごとにブースを設け、ゲストティーチャーをそれぞれ配属し、児童が自由に行き来できるような環境作りをする。 ・遊び方やこつなどは児童から積極的に質問するように声掛けをする。 【評】 昔の遊びの仕組に気付いたり遊び方を学んだりする活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・休み時間も自由に遊べる環境を整えておく。</p> <p>・いろいろな昔遊びの中から極めたい遊びを一つ選んで技を習得し、次時に発表することを伝える。 ・より楽しく遊ぶための工夫やルールを児童に考えさせる。 【評】 練習の仕方やより楽しくなるように遊び方を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ゲストティーチャーを再び招き、上達した様子を見せられるとよい。 ・本時を迎えるまでに、休み時間等を利用して自主的に練習することを促す。 ・児童が考えた遊び方やこつなども紹介させる</p> <p>・自分自身の変化や友達のすごいところ、ゲストティーチャーへの言葉など、さまざまな観点から考えさせる。 ・成長した喜びや教えてくれた人に感謝の気持ちを表現している児童を取り上げ称賛する。 【評】 単元を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

- ・昔の遊びを知っている地域の方々との連携が可能な場合、本単元を設定する。地域の方を2回招く機会を設け、1回目は昔の遊びを教えてもらう学習を行い、2回目は児童が上達した昔の遊びを披露する発表会を行う学習計画になっている。そのため、事前に地域や家庭に呼びかけておく必要がある。
- ・地域の方を招かず、1～4時間完了として計画してもよい。4時間完了として設定しない場合は、残りの時間を「ふゆをたのしもう」の冬の遊びや、「ようこそ小学校へ」の交流会の準備に充てることも考えられる。